

Y8-3

国際医療救援を目指す仲間のために
～「あおむしの会」の発足

名古屋第二赤十字病院

○可知 さなえ、関塚 美穂、高井 久美子、
山之内 千絵、山田 則子、平田 巳雅、
伊藤 明子、白子 順子

当院は国際医療救援部拠点病院であり、国際活動に携わる人材の育成を行っている。その一環として、私たちは国際医療救援部付看護師（以下救援部看護師）として院内外で研修を行っている。私たち救援部付看護師の役割の一つとして、国際医療救援を目指す職員の仲間づくりや情報交換、国際活動についての学習などの機会を提供するため「あおむしの会」を発足させた。対象は看護職に限らず、国際医療救援に関心のある全職員とした。「あおむしの会」は、2008年9月に発足し、計10回開催した。テーマは「ICRC・連盟の活動」「ERU」「派遣時の個人装備」「英語の学習法」など国際医療救援に関連したもののの中で、参加者が興味を持てるよう身近で具体的な内容とした。1回の参加者は6～20名で、職種は医師、看護師、臨床工学技師、放射線技師、栄養士など他職種に渡り、経験年数は新人から5年目までが多かった。院内の派遣経験者や救援部看護師が経験談を話したり、常備されている個人装備を点検したり、参考文献の紹介などを行いながら会を進めた。参加者からは、「職種を超えた交流ができてよかった」「よい刺激になった」「国際医療救援に対するモチベーションが上がった」などの意見があり、毎回参加するメンバーも出てきた。また、国際医療救援・開発協力の現場において教育活動を行う場合には、参加者参加型の会を行う必要がある。「あおむしの会」は、私たちが机上で学習した参加者参加型の会のシミュレーションの場となっている。今後は、会の運営方法についてさらに学習を深め技術を向上させ、参加者の希望を引き出し共にテーマを決めたり、参加者同士が積極的な交流をもつことができるような会にしていきたい。

Y8-4

看護管理中間管理者研修Bの取り組み

福井赤十字病院 看護部

○山内 ^{やまうち}ますみ、青山 操

【はじめに】当看護部は各部署の看護管理を担う看護師長・係長のマネジメント力を向上するために、6年前から看護管理中間管理者研修Bを実践している。研修目的は「各部署の管理の実際を評価し、部署運営の課題・方向性を明確にする。」である。そのねらいは、(1) 看護師長と係長が、1年間の部署の看護管理の取り組みを評価して、問題点などを十分に話し合うこと。(2) その結果、課題を明らかにして今後の方向性を明確にすること。(3) 他部署の発表を聞くことにより情報を共有して自・他部署の理解を深める研修としている。看護管理の成果をあげているので報告する。

【方法】月 日：年度の終わりの時期～2月中旬、1日間

参加者：54名（部長1名、副部長2名、師長20名、係長31名）

【結果】看護師長と係長が十分に話し合えた83.3%、部署の課題を明らかにできた88.9%、今後の部署の方向性を明確にできた85.2%、情報を共有し他部署の理解を深めることができた72.2%で目的は達成できている。

その他、「他部署の現状や工夫が参考になった」「成果を出せなかったが課題がわかり次年度に向けやる気につながった」など前向きな意見も見られた。

【今後の課題】看護部の目標を踏まえて、部署目標を掲げ、各部署がそれぞれ特徴ある取り組みをし、その結果を発表しあうことで他部署の理解も深まっている。また、自分たちの不足していたものを発見し、同じ課題で悩んでいることを共有する機会にもなっている。そして、看護部も看護師長・係長を支援するために取り組んでいることを提示することで、より看護部の思いが伝わり、看護部全体が一丸となって次年度に向かうことができる。今後の課題としては、中間管理者自らが、組織の期待する目標に向かって、希望を持って主体的に取り組めるようにこの研修も改善していきたい。